

久喜市立郷土資料館だより

ふ え ね 笛の音 第12号



スポット展「新たな市指定文化財」 展示風景

※スポット展「新しい市指定文化財」は

令和3年6月13日(日)まで開催予定です。

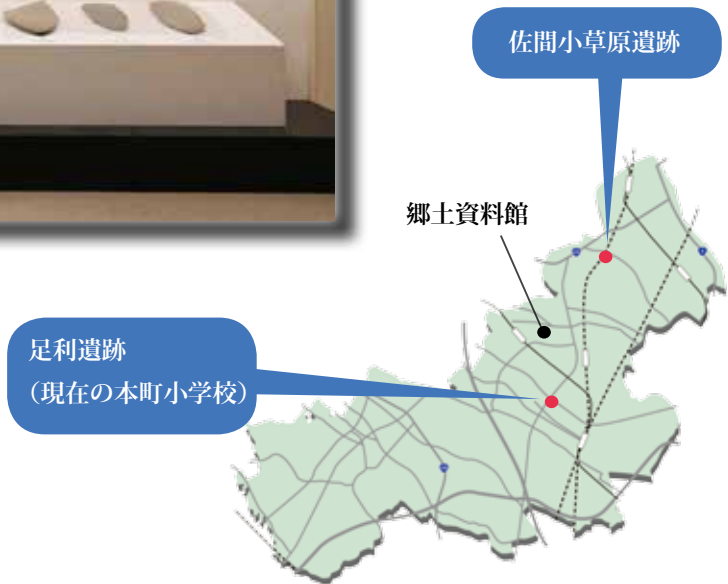
久喜市教育委員会は令和2年12月1日に「足利遺跡出土旧石器」と「佐間小草原遺跡出土遺物」の2件を新たに市指定文化財(考古資料)に指定しました。

「足利遺跡出土旧石器」は、久喜やその周辺で初めて見つかった旧石器11点で、後期旧石器時代後半の代表的な石器が揃っている貴重な資料群です。

佐間小草原遺跡は、中世の供養塔である板碑が大量に見つかった珍しい遺跡です。この遺跡から見つかった40点もの板碑や蔵骨器などの墓地に関する資料と、^{うるしめりわん}漆塗椀や瓦などの生活空間が想定される資料という、性格の異なる資料群が一括で市指定文化財に指定されています。

スポット展では足利遺跡の旧石器11点と佐間小草原遺跡の板碑・漆塗椀・瓦・かわらけ、および両遺跡の調査当時の写真を展示しています。また、常設展示では佐間小草原遺跡の蔵骨器も展示しています。

(文化財保護課学芸員 竹内俊吾)



目

次

- 収蔵資料紹介⑪・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
「島田家文書」
- 地域史コラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
久喜市の三頭獅子舞
- 特集！資料紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
消防・防火の道具
- お知らせ情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

収蔵資料紹介 ⑪ 島田家文書

栗橋関所は、正式には「ぼうせんわたしなかだせきしよ房川渡 中田関所」と称され、江戸時代に整備された主要街道の一つ、日光道中の関所として、利根川の渡船場・房川渡の傍ら（現久喜市栗橋）に設置されました。関所では通行手形に基づいて、旅人と通過荷物の改めを行っており、特に「入り鉄砲に出女」と言われるように、江戸に持ち込まれる鉄砲と江戸から出ていく女性を厳しく取り締まりました。

関所の管理は「関所番士」と呼ばれる武士が務め、栗橋関所では寛永元年（1624）から富田・新井（後に落合と改める）・佐々木・森（のちに加藤と改める）の四家が番士を務めました。その後、落合・佐々木家は交代して、江戸後期には富田・足立・島田・加藤家が番士を務めました。その中の島田家に伝わった古文書群は「島田家文書」として市の指定文化財に指定されています。

島田家文書は総数 385 点の文書群で、そのうちの約 260 点は関所を通る際に改めた通行手形です。通行手形は鉄砲などの武器を通すための「鉄砲手形」、女性が通行するための「女手形」をはじめとして、通関する対



島田家文書

「漂着琉球人通行につき証文」
えんきよう延享 2 年 (1745)

象に応じたさまざまな手形があり、中には仙台に漂着した琉球人を通すための手形も確認されています。このほかにも島田家文書には、関所に保管されていた「御関所日記」から過去の記録を抜粋して書き写し、手控えとした「御用留」や関所番士屋敷の見取り図など、栗橋関所の実態を示す貴重な資料が含まれています。

久喜市デジタルアーカイブでは島田家文書の一部資料を公開していますので、ご興味のある方はぜひアクセスしてみてください。（郷土資料館学芸員 星野 諒）



久喜市デジタルアーカイブ



地域史コラム

久喜市の三頭獅子舞

久喜市では春から秋にかけて、よけぼり除堀、なかづま中妻、はつぼう八甫、にしおおわ西大輪、こぐき古久喜、よしぼ吉羽、おぼやし小林の各地区で獅子舞が行われます。

市内の獅子舞は舞手が一つの獅子頭がしらをつけ、獅子三頭が一組となって舞を行います。獅子は雄獅子二頭と雌獅子一頭で構成され、一つの獅子頭に二人以上入って舞を行う二人立ちの獅子舞に対して、これらの獅子舞は一人立ちの「三頭獅子舞」などと呼ばれ、東日本に特徴的なものです。獅子たちは笛や太鼓の演奏に合わせて舞いますが、その際に竹をすり合わせる楽器「ささら」が使われることがあります。地元ではこの楽器の名前にちなんで、獅子舞のことを「ささら」と呼ぶこともあります。

こうした獅子舞は無病息災や雨乞い、五穀豊穡の祈願、収穫の感謝などを目的として、古くから行われてきました。地区によっては江戸時代から伝わっている道具も残されています。また、獅子舞が行われるようになった起源の伝承も各地区に伝わっていますが、久喜市は河川が集中し、水利に恵まれた地域であるため、「水」に関係する伝承がいくつか残されています。例えば除堀の獅子舞の由来記によると、かつて早魃かんぼつに見舞われていた

除堀村の村人が、村の西方にある池に浮き上がった雌獅子を拾い上げて寺社に奉納しました。村人たちは早魃が雌獅子の怒りによるものと考え、雨乞い祈願の供養をするとにわかには雨が降り出し、以来二頭の獅子を加えて獅子舞を行うようになりました。このほかにも、古久喜では大水が出た際に青毛堀に流れ着いた獅子頭を寺社に納めたこと、小林でも大水で流れ着いた獅子頭を寺社に納めたことが獅子舞の起源となっています。

このような土地にまつわる伝承と息災を願った人びとの想いととも、獅子舞は現代まで舞い継がれています。（星野）



市指定無形民俗文化財「除堀の獅子舞」

特集！資料紹介

消防・防火の道具

ここで紹介した資料は収蔵品展「ちょっとむかしの道具たち—新しい収蔵品を中心に—」で展示中です。

開催期間：令和3年3月23日（火）～6月13日（日）

はんしょう
半鐘



小型の釣鐘で、火災や水害などの警報を伝える道具です。火の見櫓やぐらなどに取りつけ、災害の危険があるときに、これを叩き鳴らして人々に知らせました。とくに近いところで火災が発生したときは、火元であることを知らせるために、半鐘を続けざまに鳴らす「擦り半すりはん」という鳴らし方で打つなど、鳴らし方によって合図が決められていました。

わんよう
腕用ポンプ



消防用の手押しポンプです。台車とポンプ部分の取り外しが可能で、火災現場ではポンプ部分を取り外して使いました。吸水用のホースと放水用のホースをポンプに取りつけ、複数人で取っ手を上げ下げすることで放水する仕組みになっています。明治中期から昭和初期にかけて使われました。

火事装束



火事場で火消しが着たものです。火の粉や熱を防ぐため、頭には目の部分だけが見えるようになっている刺子頭巾きしこ（別名猫頭巾）をかぶり、上半身には膝下まである刺子半てんきやはんを着て、足首には脚絆きんぱんを巻きました。刺子は衣類を補強するために、表裏の布を重ねて刺し縫いを施す技法のことです。火事場に行く際には、火事装束を着た上で、さらに頭から水をかぶって消火に当たりました。

けいびん
軽便防火ポンプ



水を張ったバケツや桶にポンプの吸水口を入れ、本体上部を抜き差しすることで放水する家庭用の消防ポンプです。一人で扱うことができ、15メートルの高さまで放水することができました。消火だけでなく、農薬を噴霧する際にも用いることができました。

「古文書学習会」 参加者募集

受講生による古文書解読を行い、その内容に対して講師による解説を行います。

場 所 郷土資料館視聴覚ホール

日 時 令和3年5月21日、6月4日・18日、
7月2日・16日、9月17日、
10月1日・15日、11月5日・19日、
12月3日

講 師 久喜市文化財保護審議委員 林 貴史 氏

対 象 市内在住・在勤・在学者および
郷土資料館ボランティア



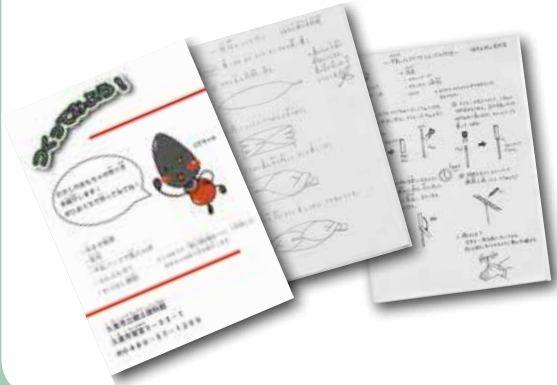
定 員 28人（申込順）

費 用 テキスト代として実費

申 込 令和3年4月15日（木）
10時00分から

申込方法 郷土資料館の窓口へ直接か、
電話でお申込みください。

ホームページにむかしのおもちゃの作り方を掲載しています！



郷土資料館では、例年子ども向けのイベントで昔のおもちゃづくりを実施していますが、この度、郷土資料館のホームページにこれまでの「郷土資料館まつり」で取りあげた昔のおもちゃの作り方をアップロードしました。ぜひダウンロードしてご自宅で作ってみてください。



久喜市ホームページ



電車で

- 東武伊勢崎線 鷲宮駅下車 徒歩 15分
- JR宇都宮線 東鷲宮駅下車「豊野コミュニティセンター」
行きバス「図書館入口」下車 徒歩 2分

自動車で

- 東北自動車道 加須インターから 10分
久喜インターから 25分

久喜市立郷土資料館だより

笛の音

第12号

発行 令和3年（2021）3月30日

久喜市立郷土資料館

〒340-0217

埼玉県久喜市鷲宮 5-33-1

電話 0480-57-1200

e-mail kyodoshiryokan@city.kuki.lg.jp

URL <http://www.city.kuki.lg.jp/>

開館時間 午前10時～午後6時

休館日 月曜日（祝日除く）、年末年始、
祝日の翌日、月末金曜日

入館料 無料

※有料の特別展を開催する場合があります